

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 黒畑 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

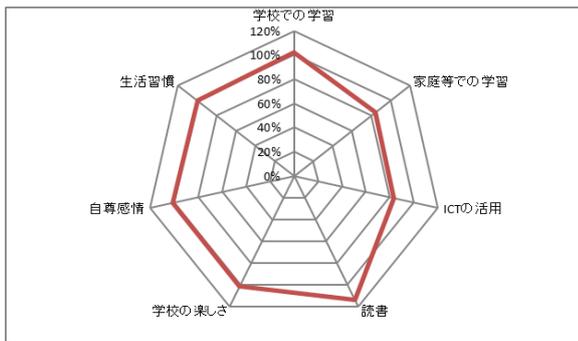
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや上回っている。特に「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」の問題が全国平均を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」の問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」「漢字を文の中で正しく使う」問題に課題が見られる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや上回っている。特に「数と計算」と「図形」の問題が全国平均を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる」「百分率で表された割合を分数で表すことができる。」の問題が全国平均正答率を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。」「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。」問題に課題が見られる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや上回っている。特に「生命」を柱とする領域や「思考・判断・表現」の問題が全国平均を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「自分の予想と実験結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつこと」や「指示された情報を複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと」の問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	「水は、水蒸気になって空気中に含まれていることを理解する」や「自分で実験方法と追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつこと」の問題に課題が見られる。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ 「読書は好き」と答えた児童の割合が全国平均を大きく上回っている。継続して、朝自習で読書活動に取り組んでいることが、数値に反映されている。
○ 総合的な学習の時間では、「地域の川やホテルの育成」(3年生)、「地域の年長者について」(5年生)等、地域について追究する学習に取り組んだ。その成果が「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた児童の割合が、全国平均を大きく上回っている。
○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしています」と肯定的に答えた児童の割合が、全国平均をかなり下回っている。宿題の量や内容についての工夫が必要である。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

○ 朝自習(黒畑タイム)を活用し、国語や算数の復習、発展問題に取り組む、基礎的、基本的な学力の定着を図る。
○ 校内研修を行い、「子どもが見通しをもって学習できる」「子どもが考えを深める話し合い活動」「子どもが考えが書けるふり返り」ができる授業づくり・授業改善に努める。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 学年の発達段階に応じて、宿題の量や内容を工夫して家庭学習の定着を図るとともに、学校日より、学年通信等で家庭への啓発と連携を図る。
○ 黒崎中学校区4校統一ルールを学期ごとに全校児童に周知徹底し、中学校への移行をスムーズに促す。